

しまねの社会教育 だより vol.12



「何して遊ぶ?」(伊波野公民館)



「みんなで育てる地域の宝」(都賀行公民館)



「このみやっこひろば」(二宮公民館)



「親学講座」(雲城公民館)



「幼児忍者」(阿井公民館)

特集 「親学プログラム」の成果と今後の展望

2012.
12月号

photo 公民館ふるまい向上プロジェクトの様子(上) H24年度親学ファシリテーター養成講座の様子(下)



東部社会教育研修センター



浜田会場



邑南会場



益田会場



江津会場

親学プログラムの

島根県立東部・西部社会教育研修センターでは、これまで家庭教育支援のための「親学プログラム」の普及・開発を行ってきました。今回は、親学プログラムの普及についての成果とこれからの展望について整理しました。

親学プログラムを知っていますか

親学プログラムとは、地域における子育て支援・家庭教育支援に活用できる参加型の学習プログラムです。

参加者同士が交流しながら、親としての役割や子どもとのかかわり方について気づきを促すことをねらいとしています。

社会教育研修センターが平成22年度から作成を始め、平成24年3月に市町村教育委員会、福祉部局、子育て支援センター、公民館、保育所、幼稚園、小・中学校等に配布しました。



親学プログラム

親学プログラムの普及について

1 親学プログラムはどの場面で使われたの？

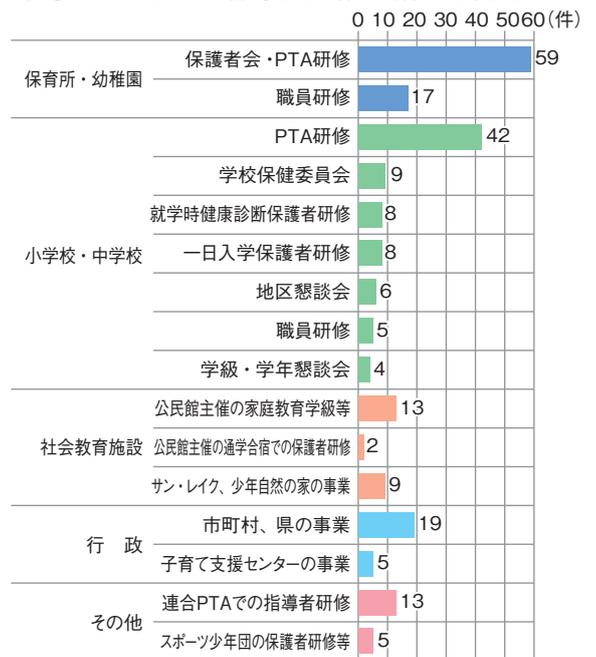
右のグラフは、親学プログラムが活用された機会を示したものです。保育所・幼稚園での保護者会・PTA研修が59件。次いで、小・中学校でのPTA研修が42件、市町村・県の主催事業が19件です。その他にも、公民館の家庭教育学級等、子育て支援センターの事業、サン・レイク、少年自然の家の事業など様々な場面で活用されるようになってきています。

また、平成22年度から行われた「公民館ふるまい向上プロジェクト」の中で親学に取り組んだ公民館等もありました。



公民館ふるまい向上プロジェクト
三瓶公民館「親学講座」

親学プログラムを活用した研修・講座の機会



平成22年4月～平成24年10月31日
※社会教育研修センターで行われたものは除く。

2 どのプログラムが多く使われたの？

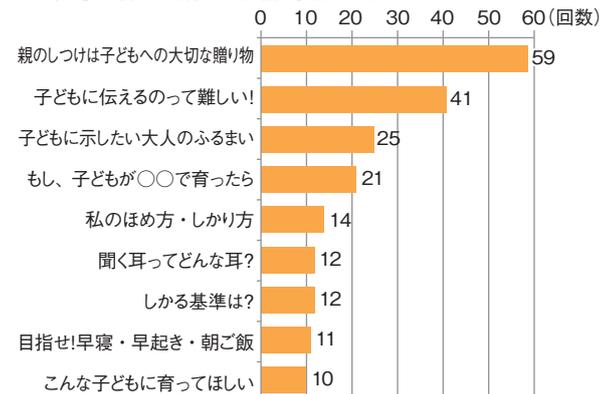
右のグラフは、研修・講座で、どのプログラムが活用されたかを示したものです。

よく活用されているものを挙げてみます。

- 1位 親のしつけは子どもへの大切な贈り物 59回
- 2位 子どもに伝えるのって難しい! 41回
- 3位 子どもに示したい大人のふるまい 25回

しつけ、コミュニケーション、親としての心構えをテーマにしたプログラムが多く活用されています。現代社会の子育てに関する課題がここにも反映されているように思います。

親学研修・講座で活用されたプログラム



平成22年4月～平成24年10月31日

成果と展望

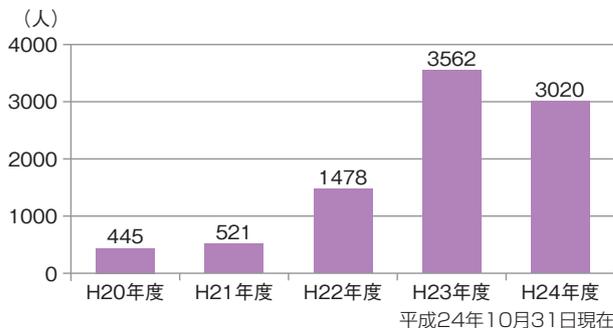
③ 親学講座にどのくらいの参加者があったの？

右のグラフは、平成20年度～平成24年度の親学プログラムを活用した研修・講座の参加者数の推移です。

平成22年度から参加者数が増加しているのは、「親学ファシリテーター養成講座」の修了生が、各地域で親学講座を実施する回数が増えたからです。

年々、親学プログラムを体験した人は増えてきています。

親学プログラムを活用した研修・講座の参加者数



親学プログラムを進行するファシリテーターがいます

① 親学ファシリテーターって？

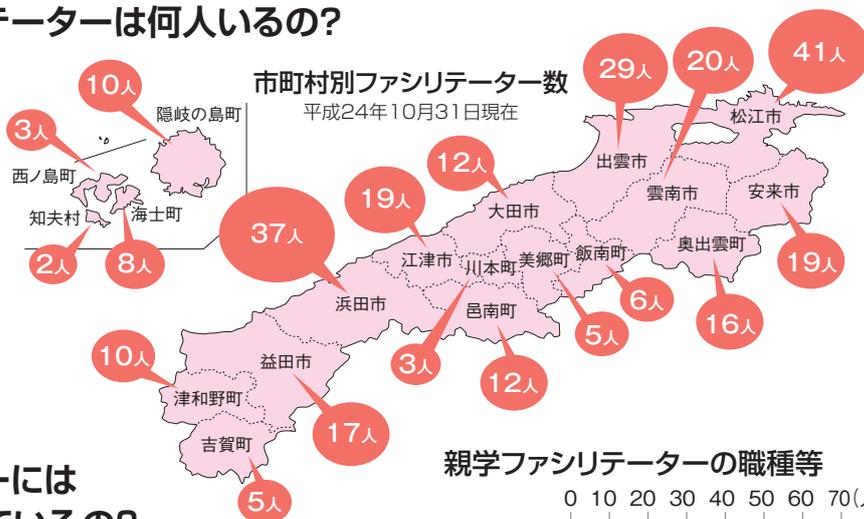
親学ファシリテーターとは、親学プログラムを進行する学習支援者(進行役)のことです。依頼のあった保育所、幼稚園、小・中学校のPTA研修会や保護者会等に出向いています。親学ファシリテーター養成講座で学習した成果と自分のアイデアを生かし、楽しく親学プログラムを展開しています。

② 県内に親学ファシリテーターは何人いるの？

右の図は市町村別のファシリテーターの数をあらわしたものです。

平成22年度からの3年間で274人の親学ファシリテーターを養成しました。

この3年間で、全ての市町村に親学ファシリテーターを養成することができました。



③ 親学ファシリテーターにはどのような人がなっているの？

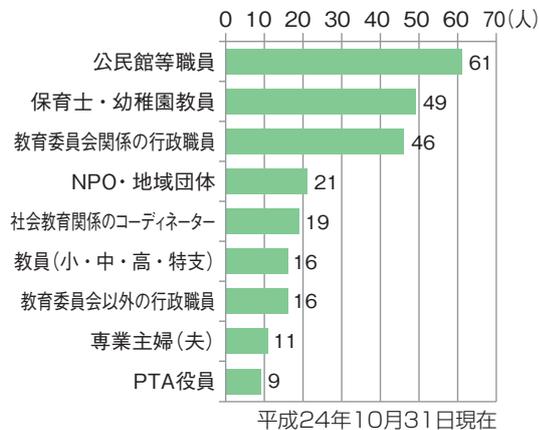
右のグラフは、親学ファシリテーターの職種等の内訳をあらわしたものです。

最も多いのは公民館等職員、ついで保育士・幼稚園教員です。保育士・幼稚園教員が多いのは、保育所等からの親学のニーズが高いことの現れだと思われます。3番目は、教育委員会関係の行政職員です。行政関係者がファシリテーターになることで、各市町村で親学プログラムを活用した家庭教育支援の充実・推進が期待されます。

また、社会教育関係のコーディネーター、PTA役員など地域の様々な立場の方が親学ファシリテーターになっているのも大きな特徴です。

さらに、福祉部局との連携が進み、社会福祉協議会の職員や保健師が親学ファシリテーターになるケースもありました。

親学ファシリテーターの職種等



この他にもこのような立場の方が親学ファシリテーターになっています。

社会福祉協議会職員、保健師、警察署職員、放課後児童クラブ指導員、主任児童委員、学校図書館司書、図書館職員、病院職員、大学生等

親学プログラムの成果

親学プログラムや親学ファシリテーターを活用して学習機会を提供してきたことにより、各市町村の家庭教育支援において、数多くの成果が挙がっています。

体験した保護者の声

●日頃よく会うメンバーですが、具体的な子育てに対する悩みや不安を話す機会がなかなかないので、有意義な場でした。

(保育所保護者)

●みんなが同じような体験をして、同じように悩んでいるということが分かるだけで、少し気持ちも楽になり、また、毎日がんばれるような気がします。楽しく子育てしていきます!!

(小学校保護者)



親学ファシリテーターの声

●公民館活動や地域の活動(子ども会、PTA)でも役立てたいと思います。

(浜田市ファシリテーター)

●参加された方々が、熱心に話してくださり良かったです。帰る時には皆さんが仲良くなっておられたようでうれしく思いました。機会があればまた是非やりたいです。

(安来市ファシリテーター)



江津市 保育所



安来市 小学校

子育てに対する
気づきがあった

親同士の
交流が深まった

成果

人材が
養成された

子育ての
悩みが解消した

地域の教育力が
向上した



隠岐の島町 中学校



吉賀町 小・中養護部会

実施した保育所、学校の声

●普段、親御さん同士で子育てを話題にして会話をすることはあまりないので、このような時間をもつことは貴重だと思いました。

(保育所長)

●中学校の1日体験入学の際に実施しました。校区には5つの小学校がありますが、親学講座のおかげで保護者同士のつながりができました。また、保護者同士が顔見知りになることにより、生徒同士の関係も良好になりました。

(中学校長)



県民運動
「ふるまい向上プロジェクト」の中でも
親学プログラムが活用されました。

ふるまい向上プロジェクトコーディネーターの声

●「他の親御さんと楽しく交流できた」という声がたくさん聞かれました。親学は、楽しい中にも学びのあるプログラムだと思います。

●親学は、参加した人を笑顔にする力があると思いました。表情の硬かった男性が親学が進んでいくうちに、表情が和らいでいくのが分かりました。

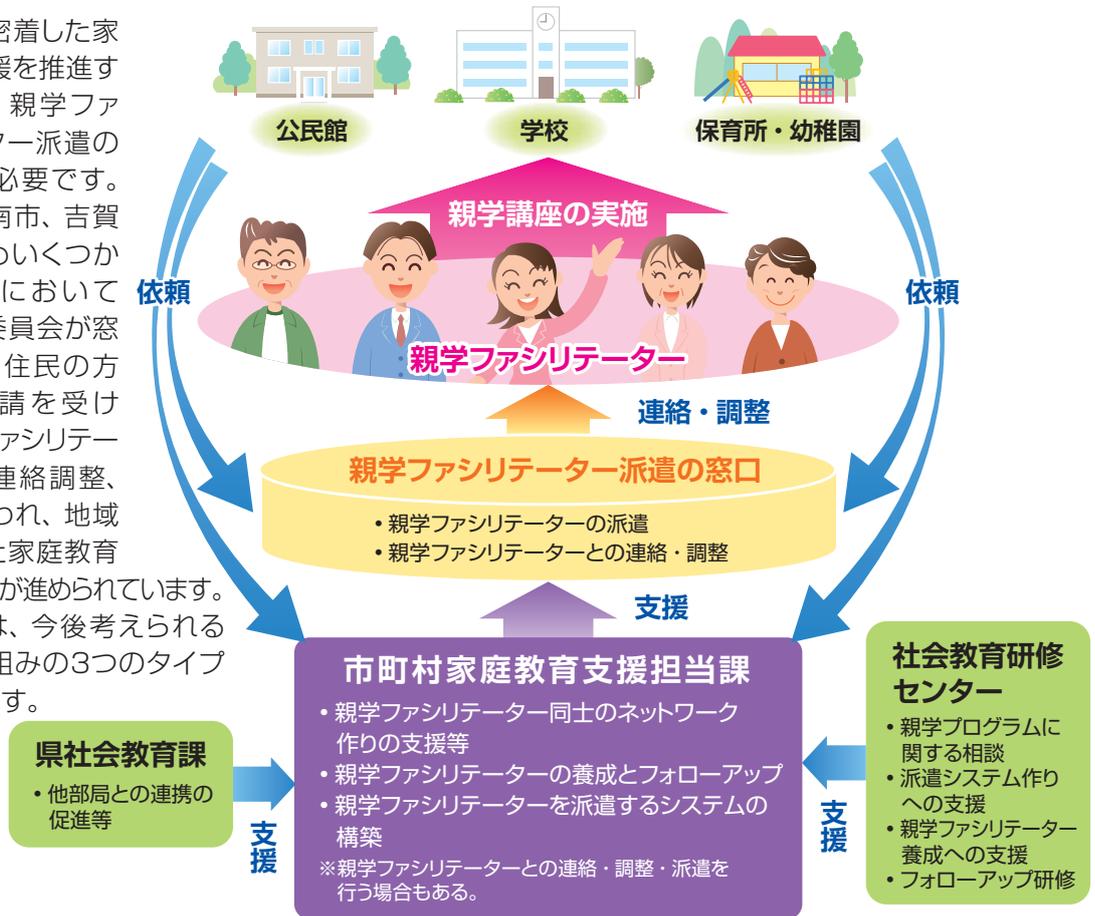


親学プログラムの今後の展開

1 親学ファシリテーターを派遣する仕組み(イメージ)

地域に密着した家庭教育支援を推進するために、親学ファシリテーター派遣の仕組みが必要です。すでに雲南市、吉賀町をはじめいくつかの市町村においては、教育委員会が窓口となり、住民の方からの要請を受けて、親学ファシリテーターとの連絡調整、派遣が行われ、地域に密着した家庭教育支援の取組が進められています。

ここでは、今後考えられる派遣の仕組みの3つのタイプを紹介します。



【親学ファシリテーターを派遣する仕組み(イメージ)】

2 親学ファシリテーター派遣の仕組み3つのタイプ

市町村家庭教育支援担当課が窓口になるタイプ

市町村の家庭教育支援担当課の中に窓口を置きます。親学の依頼を受けたら、担当者が派遣の調整を行います。

親学ファシリテーターの会(仮称)が窓口になるタイプ

その市町村内の親学ファシリテーターを集め、親学ファシリテーターの会を作ります。親学の依頼を受けたら、会の担当者が派遣の調整を行います。

既存の組織の中に窓口を作るタイプ

各市町村にある既存の子育て・家庭教育支援関係の組織の中に窓口を置きます。親学の依頼を受けたら、組織内の担当者が派遣の調整を行います。

社会教育研修センターでは、各市町村での家庭教育支援の取組がより充実するよう、今後も支援・情報提供等を行っていきます。

学校と地域が連携したキャリア教育の取組

キャリア教育の推進にあたっては、学校と地域との連携が大切です。

平成23年1月に中央教育審議会から出された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」の中にも、「家庭、地域、社会、企業、経済団体・職能団体、NPO等の連携」の必要性が述べられています。

今回は、雲南市と益田市真砂公民館の事例を通して、学校と地域がどのような形で連携していくことができるのかを考えます。

連絡協議会を作って進めている事例

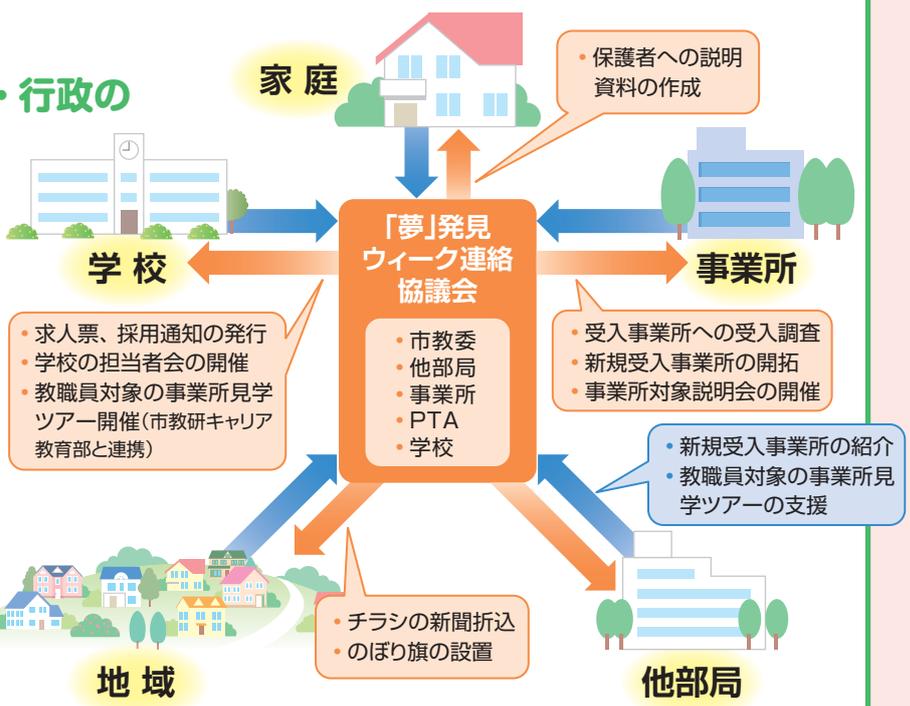
雲南市『夢』発見ウィーク

「『夢』発見ウィーク」とは?

市内7中学校の3年生が、同じ日程で、市内全域を活動場所として行う職場体験学習のことです。家庭・地域・事業所・行政が連携して行っているところが大きな特徴です。そして、連携の推進力になっているのが「『夢』発見ウィーク連絡協議会」です。

学校・家庭・地域・事業所・行政の連携の仕組み

右の図が「『夢』発見ウィーク連絡協議会」を中心にした連携のイメージ図です。協議会の事務局は教育委員会が担っています。



協議会があることで、ねらい等が学校・家庭・地域(事業所)で共有できるなど、連携がより推進されています。



新聞の折り込みチラシ(地域への広報活動)

連携して企画運営する良さは?

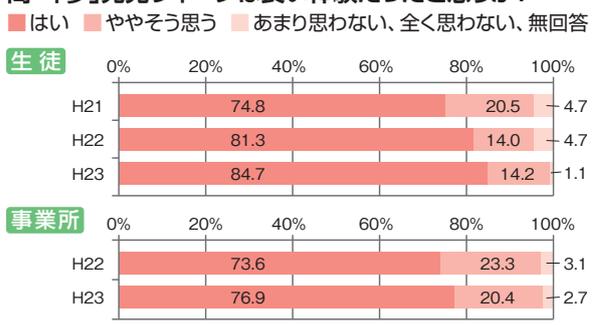
- 1 学校・事業所の負担の軽減
- 2 地域全体で生徒を育てていくという機運の醸成
- 3 生徒の受け入れ事業所の拡大
- 4 合併後の雲南市民としての意識の醸成

連携する時のポイント

- 1 ねらい(思い)をどれだけ共有できるか
- 2 行政が学校現場に寄り添う
(雲南市ではH18年度より教育委員会職員が教育支援コーディネーターとして各中学校に駐在)

「夢」発見ウィークの評価が高まっています

問: 「夢」発見ウィークは良い体験だったと思うか?



【雲南市教育委員会調査】

公民館・学校・
地域商社が連携して
進めている事例

ま さ こ 益田市真砂地区の取組

真砂地区は、人口410人、世帯数184、高齢化率46.8%、小学生16人、中学生9人の地域です。この地区では、公民館・学校・地域商社が連携してキャリア教育を進めています。

こんな取組をしています

商品開発・販売

公民館・学校(保護者)・地域商社が連携し、地域の食材を使って「真砂オリジナルメニュー」を開発。地域行事の「真砂(まる)ごとフェスタ」で販売しました。また、小学生がパッケージのデザインを考え、地域商社が市内の大型店などでも販売しました。



小学生が考えた
パッケージデザイン

地域の先輩に聞く

真砂地区でがんばっている先輩に、「ふるさと真砂」をテーマに語っていただきました。中学生が「真砂の将来のこと」「自分の生き方」について、真剣に考えるきっかけになりました。



真砂(まる)ごとフェスタでの
小学生による販売活動

学校

- ・真砂の将来を担う児童、生徒がいる
- ・児童、生徒の視点での発想がある

地域商社

- ・商品開発、販売のノウハウがある
- ・地域情報の発信力がある



中学生に、真砂の将来について語る
地域商社社長

3者の良さを 生かした 連携

起業家教育講演会(トークセッション)

「真砂から始めよう!今、中学生に伝えたいこと」をテーマに県西部で起業している方と中学生が、職業や将来の夢について語り合いました。地域住民も参観し、住民の「地域づくり」の意欲向上にもつながりました。

公民館

- ・地域の情報がある
- ・学校、地域商社をつなぐコーディネーターがいる

真砂の食材を使ったレシピ作り

小・中学生と地域が一緒になって、真砂の食材を使った料理のレシピを作りました。このレシピは、実際に学校給食のメニューとして出されることになりました。今後中学生は、開発したレシピを市内の保育所に提案する予定です。また、保育所の給食で使う野菜の栽培が、未耕作地の活用や高齢者の生きがいにもつながりました。

公民館、地域のメリット

- 1 小・中学生と地域とのつながりが深まった。
- 2 住民の地域食材の良さの再認識、未耕作地の活用に取り組んでいこうという思いが広がってきた。
- 3 開発した商品の販売などが、真砂の情報発信に一役買った。
- 4 地域住民の中に、子や孫に元気な真砂を引き渡したいという「小さいけれど強固な輪」ができてきた。

学校のメリット

- 1 真砂を愛する大人たちとの出会いにより、子どもたちが真剣に自分の生き方を考えるようになった。
- 2 真砂の良さに気づき、「真砂に住む」ことへの誇りをもつようになった。
- 3 多くの人と関わることで多様な価値観にふれて考えを広げるとともに、人間関係づくりを学ぶ場になった。
- 4 学校の活動に保護者や地域を巻き込むことができた。

おおば

大庭館長に聞く

学校と連携するポイント

学校と公民館が地域の課題を共有し、先生と一緒に、子どもたちに何ができるのかを考えることが大切です。そこから色々なアイデアが生まれてきます。また、先生が気軽に公民館に立ち寄ることができるような「先生も地域の一人」という雰囲気を地域全体で作ることが大切です。そのために、年度初めの地域行事の場で、新しく真砂にいられた先生の紹介をしています。

ご活用ください! 「市町村支援事業」

今年度より東部社会教育研修センター・西部社会教育研修センターでは、「社会教育の実践現場ですぐに役立つ研修をしてほしい。」というご要望にお応えするために、市町村支援事業を始めました。市町村が社会教育に関わる研修を企画・実施される際、より充実した研修や学習プログラムになるようサポートします。

まちづくり・新しい公共



地域課題解決につながる学習プログラムを実施するにはどうしたらいいの?

事業・研修・ワークショップ

子育て支援や食育研修での講師やワークショップを紹介して!



相談・要請

・親学講座の進め方は?
・ファシリテーターが足りないなあ

社会教育委員研修やコーディネーターの研修内容をどう組み立てようか?

助言・支援

東部社会教育研修センター



サン・レイク2F

TEL 0853(67)9060 FAX 0853(69)1380

相談方法

当センターホームページに掲載している相談票に記入してFAXまたはご持参ください。

西部社会教育研修センター



いわみーる3F

TEL 0855(24)9344 FAX 0855(24)9345

サポートできる内容

- 講師情報、各種研修会の情報、参考資料や文献の紹介など
- 研修の内容や組み立て方についての相談
- ファシリテート力、コーディネート力、コミュニケーション力アップのためのワークショップ紹介
- 参加型の研修実施の際のファシリテーター紹介
- 市町村への出前講座(社会教育研修センターの人材養成研修に関わる内容)
教育、子育て支援、福祉、地域振興等、どの部局からの相談にも応じます。
- 学習プログラムに関する相談
- 親学プログラムの実施と親学ファシリテーターの養成、スキルアップ、派遣に関する相談
- 社会教育担当者、実践者、公民館等職員の学習会や研修会のための会場提供

など

活用事例



出雲市

東部社会教育研修センターのファシリテートで、コミュニティセンター職員を対象に、「地域住民が主体となった特色ある地域づくりのための事業の在り方」について学ぶワークショップを実施しました。



美郷町

美郷大学生(高齢者学級)の社会教育参加意識を高めるためのワークショップ実施。町の社会教育担当者とセンター社会教育主事が協力してファシリテートしました。



浜田市

西部社会教育研修センターで親学ファシリテーターと市担当者で親学講座実施のための打ち合わせをしました。ワークの進め方、用具の貸し出し等で、センターが支援を行いました。



お気軽に電話、FAX、面談でご相談ください。

社会教育の実践紹介



雲南市

ふるまい向上は、日常から ～子どもも大人もinサマーキャンプ～

雲南市 雲見の里いいし 会長 若槻 一

第4回目の小学生と幼稚園児(全員参加)を対象にしたサマーキャンプ(校庭での1泊研修・生涯学習部担当)を実施しました。目的はふるさとでの思い出づくりです。この事業の目標は、①主役である児童、園児の自主性を発揮する場を多く設定すること。②部員・保護者だけでなく地域



～地域連携～
吹き竹づくりでご飯炊きの名人を探せ!

の人の参加を求め、この事業を通して地域で子どもの健全育成を目指すことです。今年のご飯を炊くこと(吹き竹作りも)。羽釜名人を募集し3名(高齢者)の参加を得て、指導して頂きました。

幼稚園児は神社へ行き、焚きつけの杉の葉拾い。低学年は近所の商店にカレーの食材買い(お金の支払、領収証の受取り)。高学年はテントの設置。食事作りは全員で行いました。



～自主性をつける活動～
各班「今日のふるまい標語」が決定

キャンプファイヤーの1部と3部は厳粛に行い、火への思いを抱かせました。第2部はゲームで大いに盛り上がりました(指導者は部員)。全日程を小学校のなかよし班で行い、各班にこのキャンプで目指す「ふるまい向上」を決めてもらい、反省会でその結果を発表してもらいました。キャンプを終えて、改めて地域に多くの人材がおられることを認識しました。

津和野町

「三世代で見つける青原の歴史」

～地域の絆を深め、郷土を愛する子ども達を育てたい～

津和野町立青原公民館 館長 吉永 種男

青原地区の土曜会で「早く子どもたちに伝えないと埋もれてしまう青原の歴史的遺産が沢山ある。どうにかならんじやろうか。」という声が上がったのをきっかけに、土曜会員と一緒に取り組んだ事業です。

公民館とすれば学ぶだけでなく、シルバー世代、親世代、学校の先生との絆を深く結びつけ、一緒に郷土を愛する子ども達を育てることができたら…。そんな思いで取り組み



水路に入る子どもたち

ました。昨年度注目した歴史は次の2つ。1つ目は「大庭又三郎の掘った水路のトンネル」です。岩山に4年の歳月をかけて作られた約60mの用水路です。最近では荒れて竹藪になったトン

ネルへの道を、賛同して下さる地域の方々が道を作り、子ども達とトンネル見学ツアーに出かけました。

2つ目は、「庄屋・原田家」です。原田家のたたらで作った鉄は質の良さで全国に知られていました。益田市の「大鳥たたら跡」を訪ね、皆で原田家の偉大さに感嘆しました。この事業に参加していただいた皆さんの様子から、シルバー世代は「まだまだ俺たちはやれる。」と意欲的になり、青原地区の絆もより強くなったように感じられました。

本年度は、柳地区の歴史に注目し取り組み始めています。まだまだ埋もれている歴史が沢山あり、大変楽しみです。



「大鳥たたら跡」を訪ね、
二川郷土史研究会から説明を聞く

県内派遣社会教育主事 奮闘中!

笑顔と感謝

～人と人がつながるうれしさ～

安来市教育委員会 派遣社会教育主事 勝部 雅之



市内のとある交流センターで行われている通学合宿での一コマです。

地域のボランティア「あんた上手に包丁が使え～ね。家でもよくお手伝いしようかね。」

子ども「いや～。全然やってないです。」

地域のボランティア「そ～かね。でも慣れちよやなよ。」

ごく自然に子どもたちの懐に入っていく地域のボランティアさんに子どもも違和感を覚えることなく、むしろ心地よさそうにすう～とその世界に入っていきます。

気さくに声を掛ける地域の方も笑顔で嬉しそうです。子どもたちも恥ずかしそうにしていますが、まんざらでもない様子です。こんな関わり合いの中で、普段は、お手伝いもしないのに急に家で手伝いをし始める子がいるかもしれません。地域の方にとっても元気の源になるかもしれません。

通学合宿で
地域の方と一緒に
食事作り



交流センター主事と
学校のふるさと教育担当者による
ワークショップ

私は、こんなふうに笑顔と笑顔がつながって、人と人がつながっていくのが大好きです。そんな笑顔のあふれるまちを目指して、地域の方々を対象にボランティア研修会の開催をしたり、交流センターの主事の方々を対象に学校と地域の連携の研修を開催したりしています。

地域の方から「子どもにどう関わっていいのかわからない」という言葉をよく聞きます。子どもには、叱るときは叱らないといけません、基本は、ほめることが大切だと私は、思います。親でもなく、おじいさん、おばあさんでもなく、学校の先生でもない地域の方に叱られたり、ほめられたりすることが子どもにとってはとても効果的だと感じています。

安来市では、通学合宿、ふるさと教育、総合的な学習の時間などで学校支援ボランティアとして地域の方に関わっていただいています。これが末永く続き、安来の子どもたち、先生方、地域の方、おうちの方の笑顔につながればと願っています。



12月～3月の社会教育関連事業

社会教育主事講習(B)

会場 ■ 東部社会教育研修センター(出雲)・西部社会教育研修センター(浜田)

開催期間 ■ 1月21日(月)～2月27日(水)

●生涯学習概論	1月21日(月)～1月25日(金)	●社会教育計画	1月28日(月)～1月29日(火) 2月 4日(月)～2月 6日(水)
●社会教育特講	2月 7日(木)～2月18日(月) 2月20日(水)	●社会教育演習	1月30日(水)～2月 1日(金) 2月19日(火) 2月21日(木)～2月27日(水)

※1月30日～2月1日の社会教育演習(宿泊研修)は、国立江田島青少年交流の家で開催します。

※2月19日の社会教育演習「教育施設整備の動向」は、出雲市鷹巣コミュニティセンター、出雲科学館で開催します。

※2月21日～27日の社会教育演習「事業計画立案の実際」は東部社会教育研修センターで開催します。

※社会教育主事講習の詳細内容は「しまねの社会教育だより(第11号)」をご覧ください。

結集!しまねの子育て協働プロジェクト 第3回コーディネーター研修 「つなぐ・つながる実践発表交流会」

日時 ■ 平成24年12月18日(火)
10:00～16:00

会場 ■ あすてらす 研修室(大田市)

対象 ■ 学校支援関係者(コーディネーター・ボランティア)、放課後支援関係者(コーディネーター・学習アドバイザー・安全管理員・指導員)、公民館等社会教育関係者、学校教育関係者、市町村事業担当者

内容 ■ 事例発表・意見交換

講評 ■ 香川大学生涯学習

助言 ■ 教育研究センター

清國 祐二

センター長・教授

お問い合わせは

県社会教育課 Tel 0852-22-5428

「第11回 中学生の文化祭」 ～アートフェスティバル2013～

会場 ■ 【舞台の部】
会場 ■ 島根県芸術文化センター

「グラントワ」小ホール
平成25年1月27日(日)
13時～16時

【展示の部】
島根県芸術文化センター
「グラントワ」多目的ギャラリー
平成25年2月23日(土)～2月24日(日)
島根県立美術館 ギャラリー
平成25年2月27日(水)～3月4日(月)

内容 ■ 【舞台の部】
弁論・英語弁論・合唱・
吹奏楽・郷土芸能

【展示の部】
書写・図画

お問い合わせは

県社会教育課 Tel 0852-22-5428

「しまね子ども読書 フェスティバルin飯南」

日時 ■ 平成25年3月3日(日)

会場 ■ 島根県中山間地域研究センター

内容 ■ 絵本作家サトシンさんの講演
ぬりえ・お絵かき・葉 創作コーナー
みんなで読み聞かせコーナー
絵本 1000冊貸し出しコーナー



本名: 佐藤 伸さん

NHK教育番組「みつけた!」でお馴染みの「おてて絵本」。みなさんも一度はご覧になったことがあるのでは? 「おてて絵本」生みの親であるサトシンさんによる講演です。おてて絵本のこと、自作絵本の読み聞かせなど、子どもも親も楽しく学べる講演会です。

サトシンさんのえほん



お問い合わせは

飯南町教育委員会 Tel 0854-72-0301

編集スタッフから

本号の特集で取り上げたように、これまで東部・西部社会教育研修センターでは「親学プログラム」の普及に取り組んできました。このような参加型のワークショップや体験形式の講座を経験した保護者が、経験していない保護者に比して「子育てに必要な知識や意欲の向上」「学校、地域、保護者同志の協力関係の向上」など、さまざまな面において高い効果を示すことがわかっています。社会全体の多様化が進み、「子育て」にも決まった「答え」が見つからない現代社会において、親同士の温かいつながりの中でそれぞれの気づきを促していく取組はますます求められています。

ただ、同じ調査の中で、学校等の主催者側は保護者ほどには効果を感じていないことも明らかになっています。このあたりが、今後のさらなる普及に向けたカギになるかもしれません。

※「平成23年度「家庭教育支援の効果に関する調査研究」報告書」株式会社三菱総合研究所 2012年3月

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみ～る3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp